

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション
所在地	(〒 940 - 0098) 新潟県長岡市信濃 2 - 6 - 18		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2018 年 9 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	(23) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2019 年 2 月 6 日	出席人数 (合計)	(27) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (4 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (0 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (3 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (9 人) <input type="checkbox"/> その他 (7 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	(平成 30 年度に向けて) 前回の改善計画	(平成 30 年度) 実施した具体的な取組	(平成 30 年度) 進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容をしっかり身に付ける事が出来るように職員個々の目標に合わせ研修に参加してもらい、他の職員に伝達する機会を作る。 ・推進会議に参加したことが無い職員を優先に会議に参加させ、地域との関わりやサービスの必要性について意識付けを行っていく。 ・計画的にカンファレンスの機会を作り、個々の利用者のケアの見直し、医療面の知識の習得に努めていく。 ・安全運転及び防犯対策は継続し、職員の安全意識を高めることで事故0に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画を立案する際に研修委員として一般職員も参加させ、研修計画に反映させている。 ・『テレマティクス』サービスを利用し、公用車の交通安全に繋げた。また研修により安全運転の意識付けを行った。 ・個人情報の流出予防のため、持ち出し制限及び管理の明確化を徹底した。(外出時、公用車には個人情報は置かない等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度研修計画、個別研修計画に沿って研修を行っている。 ・推進会議の開催数が減った為、計画作成責任者以外の参加には至っていない。 ・定期的または状態変化に応じた担当者会議での検討は行われているが、カンファレンス形式での検討を行うことが出来ていない。今年度中に実施していくことが必要である。 ・安全運転及び防犯についての対応、意識付けは出来ているが、継続していくための研修等が必要である。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11~21)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期随時サービスの制度について計画的に研修を行う。異動または新入職員には適宜個別にサービス説明を行うことで、全職員ばらつき無く家族等からの相談事に応じられるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異動職員に対しての説明は適宜行い、知識情報の共通化を図っている。また必要時には適宜口頭やタブレット等で共有化、共通化を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画通りに研修は実施できている。また職員個々の研修計画でも知識技術の習得を行っているが、継続的にフォローが必要である。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22~27)	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者に対してフェニックスネットの同意を勧め、タブレットを利用した適切でリアルタイムな情報共有が出来るよう多機関・多職種との連携方法を引き続き検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規契約時にフェニックスネットの説明を行い、同意を勧めている。それによるリアルタイムな情報共有ができるよう努めている。また電話等でも行い、状況変化に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットに連携している事業所とはリアルタイムな情報共有を行えるようになり、利用者の状況変化に早期対応できるようになっている。今後もフェニックスネットに連携していない他機

		<ul style="list-style-type: none"> ・センター内外の各種行事や地域の集まり等での情報発信を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対しての情報発信を行っている。 	<p>関との連携方法を検討していくことが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対しての情報発信は今後も継続することが必要である。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28~32)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民全般に対する情報発信活動を継続しつつ、「まちづくり」の視点を持った地域住民に対する情報発信を行っている。具体的にはインフォーマルサービスに限らず、地域で利用できるサービスの説明や活用方法など伝え、活用を促す。 ・「よろず相談所」が地域の相談所として根付くように宣伝を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の集まりにおいて「定期随時紹介劇」を行い、定期随時サービスの情報を分かりやすく発信した。 ・地域の相談窓口として「しなのよろず相談所」を定期開催している。 ・広報「まもーる通信」を発行した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスについて情報発信を行っているが、地域住民にとって分かりやすく、また自分のこととして捉えていただけるような方法で行っていくことが必要である。 ・広報誌を発行する事ができ、定期発行していくことが必要である。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)		<ul style="list-style-type: none"> ・的確に課題を導き出し、多職種連携した支援の提供を図る。そのため、フェニックスネット・タブレット等の活用を更に強め、リアルタイムな情報共有、連携を図る。また、インフォーマルサービス等の利用も提案しながら「ご本人が望む生活」が維持継続できる様に支援する。 ・安心して在宅での暮らしが継続できる様なサービス提供に向け、利用者満足度調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人、ご家族、ケアマネ、サービス関連機関との連携手段としてフェニックスネットや電話連絡等を活用し、状態変化など早期対応ができるように努めた。 ・利用者満足度調査を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者やご家族が望む生活の継続ができるように努めている。その為にはリアルタイムに情報共有できるツール「フェニックスネット」の活用だけでなく、電話等の基本的なコミュニケーションツールを使用した連携を今後も継続していくことが必要である。また、アセスメント力の向上を図り、的確な課題を導きだせるよう継続的に知識技術の向上に努めていくことが必要である。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	(平成 30 年度) 評価結果	(平成 31 年度に向けて) 改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所年間研修計画及び個別研修計画に沿って概ね計画通り進めることが出来た。 ・推進会議の開催数が減ったこともあり、会議への一般職員の参加率は低い結果となった。 ・サービス担当者会議以外に個別カンファレンスを開催する事が出来なかった。 ・安全運転、個人情報管理、防犯についての対策・意識付けを継続的に行った。しかし車両事故が数件発生したため、事故予防の知識や技術の習得や意識付けが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所年間研修計画及び個別研修計画について、計画段階から研修による効果が良好に得られるよう管理者及び計画作成担当者等が支援していく。それにより職員の知識技術量の平均化、資質向上に努める。また習得したものを他職員に伝達する機会を作る。 ・推進会議に参加したことが無い職員を優先に参加させることで、地域における定期随時サービスの必要性等の意識付けを行っていく。 ・カンファレンスを定期的で開催できるよう、年間計画を作成していく。 ・安全運転や防犯、個人情報管理等についての知識や情報を定期的に認識するための研修の機会を設ける。それにより安全防犯に対する意識付けを継続的に行っていく。 	
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規定期随時サービス事業所の開設に伴い、他部署からヘルパーへ異動する職員が多かったが、異動職員に対しては配属時に適宜説明を行った。しかし、現任者においても知識の理解度にばらつきがあり、職員個々の理解度に合わせたフォローが必要である。 フェニックスネット連携事業所とはリアルタイムに情報共有できる状況になってきている。それ以外の事業所とは電話等による基本的な情報共有に努めてきた。また担当者会議等においても情報や課題等の共有を図り、各職種間の連携によりきめ細やかな対応に努めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期随時サービスの制度知識や情報等について定期的に伝達していく機会を設け、職員の知識向上を目指す。そして、ご利用者やご家族からの相談や自立支援に向けた提案を行えるように努める。 ・新規利用者に対してはフェニックスネットの同意を勧め、利用者の変化等に即対応できるよう努めていく。またフェニックスネットでの情報共有だけでなく、担当者会議やカンファレンスを開催し、コミュニケーションでの連携も強めていく。

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28~32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌『まも～る通信』を発刊し、地域に対して情報発信を行うことができた。 ・「まちづくり」の一環としてセンター内に健康福祉に関する相談窓口「よろず相談所」の定期開催を継続したが、認知度が低く相談者は低い状態となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の定期発行により、一般市民への情報発信を継続していく。 ・町内等の小単位での集まりの場に参加し、介護や福祉について自分自身のこととして考えて頂けるような取り組みを行っていく。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント力の向上により、的確な課題を導き出せるようになってきた。しかし、異動職員が多かったことも関係してか、多職種及び関係機関との連携について職員間の理解と習得力に温度差があり、全職員が同じレベルでの対応はできなかった。 ・担当毎でのチームカンファレンスを行うことで、利用者の状況把握とケアの見直し・意識統一ができた。 ・広報誌『まも～る通信』を発行することができた。 ・利用者満足度調査を行い、サービス向上に努める事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・的確に課題を導き出し、多職種連携した支援の提供を図る。新規利用者に対しフェニックスネットの同意を勧め、タブレット活用をさらに強化し、情報共有及び連携を図る事で、「ご本人が望む生活」が維持継続できる様に支援する。そのために、全職員が同じレベルでの対応ができるよう、個々の理解と習得力を養うとともに互いに切磋琢磨する。 ・担当毎でのチームカンファレンスを継続することで、利用者の状況把握とケアの見直し・意識統一を強化する。 ・広報誌『まも～る通信』定期発行をする。 ・安心して在宅での暮らしが継続できる様なサービス提供に向け、利用者満足度調査を実施する。

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します